

## 第4節 action 4 都市

～生活基盤が整い、便利で快適な住みよいまち～

### 土地利用の適正化



飢餓をゼロに



住み続けられるまちづくりを



陸の豊かさも守ろう

#### 【現状と課題】

嶺北北部都市計画区域に属するあわら市は、芦原温泉街と芦原温泉駅周辺の2つの市街地を中心に、北は日本海に面した畑作丘陵地帯、東は山々に抱かれた自然豊かな山間地、西南には県内でも有数の田園地帯である坂井平野を有しており、これまでこうした地域の特性を生かしながら適正な土地利用に努めてきました。

しかしながら、モータリゼーションの進展や商業を取り巻く環境の変化、人口減少と少子高齢などを背景に、中心市街地の空洞化が進行し、まちとしての賑わいが低下しています。

このため、都市機能と自然環境が共存するまちづくりを目指して、土地利用の誘導を一層計画的に進める必要があります。

今後は、あわら市の都市基盤の中核である芦原温泉街と芦原温泉駅周辺の市街地を再生し、維持していくため、計画的な土地利用方針の下、少子高齢化に対応した住環境づくりや商業の活性化、歴史や文化を生かしたまちづくりを進める必要があります。

#### 用途地域の指定状況

(ha)

種類	面積
第一種低層住宅専用地域	52.8
第一種中高層住居専用地域	94.7
第一種住居地域	145.2
近隣商業地域	41.2
商業地域	81.3
準工業地域	26.8
工業地域	36.0
工業専用地域	23.0
合計	501.0

(令和2年4月1日現在)



農業振興地域の指定状況

(ha)

	農業振興 地域	農業用 施設用地	採草 放牧地	混牧林地	混牧林地 以外の 山林原野	その他	計
農用地区域	3,499	14	4	—	18	—	3,535
農用地区域外	347	—	—	—	963	1,492	2,802
合計	3,846	14	4	0	981	1,492	6,337

(令和2年4月1日現在)

【施策の方針】

(1) 適正な土地利用の推進

▼計画的な土地利用の推進

快適で賑わいのあるまちの再生と地域特性に応じた市街地づくりを推進するため、都市計画マスタープランの推進や見直しを進めるとともに、立地適正化計画など各種計画に基づいた適正な土地利用の誘導に努めます。

▼農業振興整備計画の推進

農業振興整備計画を基本に、優良農地を確保しながら、関係機関と連携し農業振興施策を集中的に実施します。

▼地籍調査の推進

地籍調査により作成される地籍図、地籍簿その他の資料は、個人の土地取引から公的機関による開発まで、土地に関するあらゆる行為のための基礎データとなることから、調査事務の効率化を図りながら未実施地区における速やかな事業実施を推進します。



## 道路交通網の整備



すべての人に健康と福祉を



住み続けられるまちづくりを

### 【現状と課題】

嶺北地方の交通の要衝であるあわら市では、北陸自動車道や国道8号、国道305号などの主要道路を軸に、主要地方道、県道、市道などが交通ネットワークを形成しています。

市全体の道路交通体系については、点在する地域資源を有機的に結ぶ道路の整備などを通して、広域的なネットワークを形成することが必要となっています。また、身近な生活道路については、誰もが安全で利用しやすい道路環境を実現するとともに、大雪や台風、集中豪雨などの異常気象に迅速に対応するため、きめ細やかなパトロール体制の整備が求められています。



国では、防災・減災、国土強靱化対策の新5カ年計画に基づき、国道8号バイパスなどの整備を進めています。

一方、県では、北陸新幹線の県内延伸に合わせ、新幹線軌道の東西を結ぶ都市計画道路南中央線の整備に着手するなど、幹線道路の整備が着実に進められています。

これら道路環境の整備に当たっては、大規模自然災害時における、ライフラインなどの被害を最小限に留めるためにも、救命救急、救援物資の輸送など道路交通ネットワーク機能を維持するとともに、道路環境の長寿命化が不可欠です。

市道においても計画的に整備を進めるほか、道路の重要施設である市内の橋りょう134橋についても、あわら市橋梁長寿命化修繕計画に基づき点検・整備を進めています。

今後は、多様化する市民ニーズと財政状況を勘案しながら、社会活動から生産活動まですべての活動の基盤となる道路の機能を最大限発揮できるような交通ネットワークを構築することが重要です。

#### 国道・県道の状況

道路種別	管理者	路線数	延長 (m)
国道 8 号	国	1	9,344
国道 305 号	福井県	1	11,278
主要地方道	福井県	4	24,650
一般県道	福井県	14	46,281
合計		20	91,553

(令和2年4月1日現在)

#### 市道の状況

道路種別	管理者	路線数	延長 (m)
1 級	あわら市	46	59,154
2 級	あわら市	35	28,698
その他	あわら市	905	245,655
合計		986	333,507

(令和2年4月1日現在)



都市計画道路の状況

路線番号	路線名	計画幅員 (m)	計画延長 (km)	整備済延長 (km)	未整備延長 (km)	整備率 (%)
3・3・1	東縦貫線	28	9.94	0.00	9.94	0.0%
3・4・3	嶺北縦貫線	16、18	2.88	2.88	0.00	100.0%
3・4・5	金津三国線	16、8～14	5.44	2.77	2.67	50.9%
3・5・18	芦原湯町駅前線	15	0.07	0.07	0.00	100.0%
3・6・19	芦原三国線	11、16、12	0.28	0.00	0.28	0.0%
3・6・20	福井大聖寺線	11、12	1.61	1.17	0.44	72.7%
3・4・21	西環状線	16	0.99	0.68	0.31	68.7%
3・6・22	芦原駅前中央線	11、12	0.8	0.40	0.40	50.0%
3・5・23	芦原中央線	12、11	1.09	1.09	0.00	100.0%
3・6・24	芦原縦貫線	11	0.57	0.57	0.00	100.0%
3・5・25	舟津二面線	12	0.81	0.47	0.34	58.0%
3・4・27	東環状線	16	0.95	0.95	0.00	100.0%
3・4・28	市姫線	16、12	1	0.34	0.66	34.0%
3・6・29	金津細呂木線	11、12	0.97	0.97	0.00	100.0%
3・5・30	金津川上線	12、8	4.05	3.95	0.10	97.5%
3・4・31	南中央線	18、14～21	1.71	1.29	0.42	75.4%
3・6・33	新六日線	8、11、6	1.34	1.34	0.00	100.0%
3・4・34	住吉線	16	1.41	1.41	0.00	100.0%
3・6・35	下新橋線	12	0.85	0.36	0.49	42.4%
3・6・36	金津芦原線	8	0.87	0.87	0.00	100.0%
3・4・37	芦原吉崎大聖寺線	16、14.5、9	0.57	0.57	0.00	100.0%
3・5・38	吉崎金津線	12、16	0.81	0.81	0.00	100.0%
3・4・39	吉崎塩屋線	16	0.08	0.08	0.00	100.0%
3・5・63	芦原温泉駅西口線	14	0.18	0.00	0.18	0.0%
3・5・64	芦原温泉駅東口線	14	0.1	0.00	0.10	0.0%
7・6・1	山室伊井線	8	0.52	0.52	0.00	100.0%
7・6・2	湖岸線	9	0.57	0.04	0.53	7.0%
7・5・5	舟津バパス線	12	0.34	0.00	0.34	0.0%
7・5・6	春日通り	12	0.42	0.00	0.42	0.0%
7・5・7	とも川通り	12	0.42	0.00	0.42	0.0%
8・6・2	東西自由通路	8	0.12	0.00	0.12	0.0%
合計	31 路線		41.76	23.6	18.16	56.5%

(令和2年4月1日現在)

【施策の方針】

(1) 幹線道路の整備

▼国道の整備促進

福井県の大動脈ともいえる国道8号県境部の事業推進と福井バイパスの4車線化については、国土強靱化の観点からも国に対し1日も早い完成を強く要望し、県などの

前期基本計画の  
実施状況と達成率  
第1章

あわら市の現状  
第2章

持続可能な開発目標  
(SDGs)について  
第3章

後期基本計画策定の背景  
第4章

後期基本計画の  
テーマと基本目標  
第5章

後期基本計画の  
策定方針と施策の体系  
第6章

後期基本計画各論  
第7章

関係機関と協力しながら、事業の早期実現に努めます。

また、国道305号についても、必要に応じ改良の働きかけを行います。

#### ▼県道の整備促進

都市計画道路南中央線の建設促進をはじめ、芦原温泉停車場北野線や芦原温泉停車場線、北潟湖畔自転車道線、水口牛の谷線、北野松岡線などあわら市と近隣市町を結ぶ主要地方道や一般県道の整備促進について県に働きかけます。



### (2) 市道の整備

#### ▼市道・橋りょうの改良

市民の暮らしに欠かせない生活道路である市道は、日常生活の利便性の向上と安全に考慮した整備を進めます。

1級路線および2級路線については、地域間を結ぶ重要な道路であることから、交通量や舗装の損傷状況に考慮しながら計画的に改良を進めます。特に、市を縦横断する主要路線に加え、国道8号や305号、県道福井加賀線、福井金津線、芦原丸岡線など主要な県道へのアクセス道路については、重要物流路線として、優先的に舗装修繕を実施します。

また、その他の道路については、集落内の損傷状況などに応じ、適宜補修します。

橋りょうについては、定期点検を踏まえた長寿命化計画に基づき改修を進め、機能の確保およびライフサイクルコストの縮減を図ります。

#### ▼雪に強い道づくり

交通量が多く、積雪時において車両の円滑な走行や歩行者の安全に支障が生じる恐れのある市道については、融雪装置などの整備を推進します。

また、敷地内の排雪マナーの周知や、路上駐車など道路除雪の支障となる行為を行わないよう注意喚起するとともに、地域の除雪体制が整うよう地域との連携を強化します。



### (3) 道の駅の整備

#### ▼道の駅の整備と運営

あわら市北部エリアの新たな地域振興や観光の拠点として、2023年（令和5年）春のオープンを目指し吉崎地区に道の駅「蓮如の里あわら」を整備します。整備に当たっては、このエリアの強みや特徴を最大限に生かし、個性的、魅力的な道の駅とするとともに、特産品などの販売や情報発信機能を充実させ、地域産業の振興につなげます。

また、管理運営については、経営の効率化や地域との関わりなどを重視しながら検討します。





指標・目標

●道路が効率的・効果的に整備されていると考える市民の割合

42.5%(平成26年) → 42.7%(令和元年) → 50.0%(令和7年)

●都市計画道路の整備率

56.5%(平成26年度) → 56.5%(令和元年度) → 62.0%(令和7年度)

## 新幹線開業に向けたまちづくり



産業と技術革新の基盤をつくろう



住み続けられるまちづくりを

### 【現状と課題】

2015年（平成27年）3月の北陸新幹線金沢開業による交流人口の拡大は、観光振興や企業立地、新たな産業の創出などを促進し、地域経済に大きな効果をもたらしました。北陸新幹線敦賀延伸は、100年に一度ともいえる市勢発展の大きなチャンスです。市では、北陸新幹線開業に向け、2023年（令和5年）春を目標に芦原温泉駅周辺整備を進めています。



引き続き、福井県の北の玄関口にふさわしいターミナル機能の充実や駅周辺のまちづくりを進めるとともに、新幹線開業効果を最大限に引き出すことで、市内全域に波及・拡大させる仕組みを構築し、新たなビジネスチャンスの拡大やさらなる雇用の創出につなげていく必要があります。

また、北陸新幹線開業に合わせてJRから経営分離される並行在来線についても、先行事例を参考に、県や市町、民間事業者などの関係団体と連携しながら、よりよい運営方法を検討する必要があります。

### 【施策の方針】

#### (1) 北陸新幹線開業に向けた周辺整備

##### ▼北陸新幹線の整備促進

北陸新幹線敦賀延伸に向けて、福井県や関係機関と連携しながら、建設事業などの業務を支援するとともに、沿線の環境整備に努めます。

また、敦賀・新大阪間の早期全線開業についても、政府などの関係機関に強力に働きかけを行います。

##### ▼芦原温泉駅周辺の整備

北陸新幹線芦原温泉駅開業に向け、駅および駅周辺を福井県の北の玄関口にふさわしい交通結節点として魅力あふれるエリアへと整備します。アクセス道路や交通ロータリーなどの基盤整備を進め、駅利用者の利便性を高めるとともに、西口広場に整備する賑わい施設（屋根付き広場、賑わいホール、魅力体感施設など）を生かした物販やイベントの開催、魅力の発信を行い、賑わい創出や交流人口の拡大につなげます。

また、周辺においても、さらなる民間資本の投入を促進するような環境づくりに努めます。

##### ▼並行在来線への対応

北陸新幹線開業に合わせてJRから経営分離される並行在来線や駅の運営については、福井県や沿線市町、関係機関などで構成する並行在来線対策協議会と連携し、健全な運営と生活に密着



した地域鉄道としての利便性の向上を図ります。

## (2)新幹線開業後のまちづくり

### ▼新幹線開業後のまちづくり

新幹線開業効果を一過性のものとしないう、開業後も観光事業者や交通事業者、農商工業者、関係団体、各地域と連携しながら、市内各地での観光資源の磨き上げや新たな観光商品の開発、効果的な情報発信に努め、リピーターの増加やビジネスチャンスの拡大、さらには市民生活の向上につなげます。

### ▼駅周辺の新たな活性化策の検討

北陸新幹線開業後のさらなる活性化に向け、市内において、新たな創業や民間資本の活用の促進などについて検討します。







住み続けられるまちづくりを

【現状と課題】

快適で機能的な都市環境を実現するためには、住環境はもちろんのこと、道路や上下水道をはじめ、公園、緑地その他の社会基盤が計画的に整備される必要があります。

市内に整備されている公園や緑地、広場は、市民の憩いの空間として利用されていますが、これからもその機能を維持し、向上させていくため、指定管理者による管理や地元住民との共働による管理を検討する必要があります。

一方、まちづくりを進める上で、近年、景観の保護や創出といった景観への取り組みが重要視されています。あわら市では、景観条例に基づき、景観基本計画および景観計画を策定し、豊かな自然やまちなみ、農村風景などあわら市ならではの景観に対する考え方や保護の方針、活用の方法などを明らかにしました。今後も、市民や事業者、市が一体となってこれらの指針に沿った景観まちづくりに対する取り組みを進めることが重要です。

また、公共交通機関の充実も快適な都市環境実現のための重要な要因の一つです。新幹線開業後は広域公共交通ネットワークの形成を推進するため、多言語案内標識の設置や、主要交通拠点からの二次交通の整備を進めることも重要です。市内には、JR北陸線とえちぜん鉄道三国芦原線の鉄道路線や、京福バスが運行していますが、JRを除く各路線は、経営維持のための支援が必要となっています。さらに、JR北陸線も北陸新幹線開業後は、第3セクターによる並行在来線に運営が移行し、経営には市も関わることとなります。

このほか、2012年（平成24年）度から実施しているデマンド方式による乗合タクシーは、市民の身近な足としてより快適で便利となるよう市民ニーズに合わせて改善を図っていく必要があります。

都市公園の種別および名称

(ha)

種別	公園名	共用面積	種別	公園名	共用面積
街区	ゆうゆうパーク	0.62	街区	汀児童公園	0.28
	舟津温泉公園	0.27		向山児童公園	0.30
	田中温泉公園	0.16		名泉郷児童公園	0.52
	温泉発祥地公園	0.13		坂ノ下児童公園	0.22
	東公園	0.18		昭和公園	0.80
	西公園	0.19		住吉街区公園	0.17
	二面1号公園	0.22		新用街区公園	0.19
	二面2号公園	0.19		新街区公園	0.17
	二面3号公園	0.20		若葉台街区公園	0.15
	中央児童公園	0.24		近隣	クレヨンランドかなづ
	駅前児童公園	0.23	地区	北潟湖畔公園	4.94
	春日児童公園	0.05	総合	トリムパークかなづ	20.00
	合 計				24

(令和2年4月1日現在)



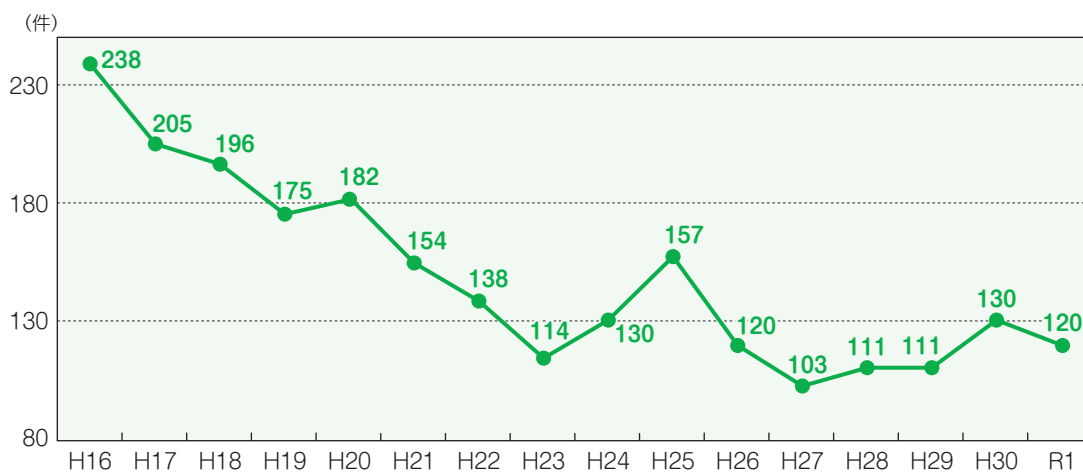
市営住宅の状況

(㎡)

団地名	建設年度	構造	戸数	敷地総面積(㎡)
二面温泉団地	S31	木造平屋	10	6,502.16
二面元村団地	S30	簡易耐火	4	406.61
国影団地	S41～42	木造平屋	14	2,739.00
田中々団地	S49～53	簡易耐火	48	5,656.06
稲越団地	S38～42	木造平屋	60	14,339.09
馬場団地	S45～46	簡易耐火	40	5,189.89
稲越第二団地	S47	簡易耐火	10	1,388.18
稲越(鉄筋)	S52	鉄筋4階	24	2,217.60
旭団地第1棟	S54	鉄筋4階	24	1,149.09
旭団地第2棟	S55	鉄筋4階	24	
馬場第二団地	S48	鉄筋4階	40	3,101.82
北金津団地	S61	鉄筋4階	24	4,300.00
計			322	46,989.50

(令和2年4月1日現在)

建築確認申請数の推移

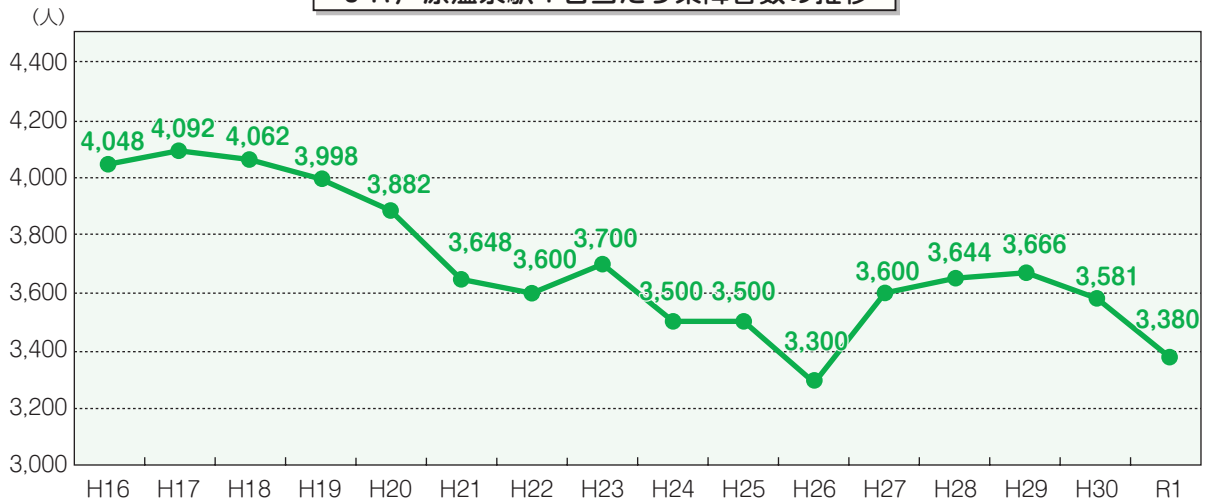


(資料：福井県三国土木事務所)

市営駐車場(有料)の状況

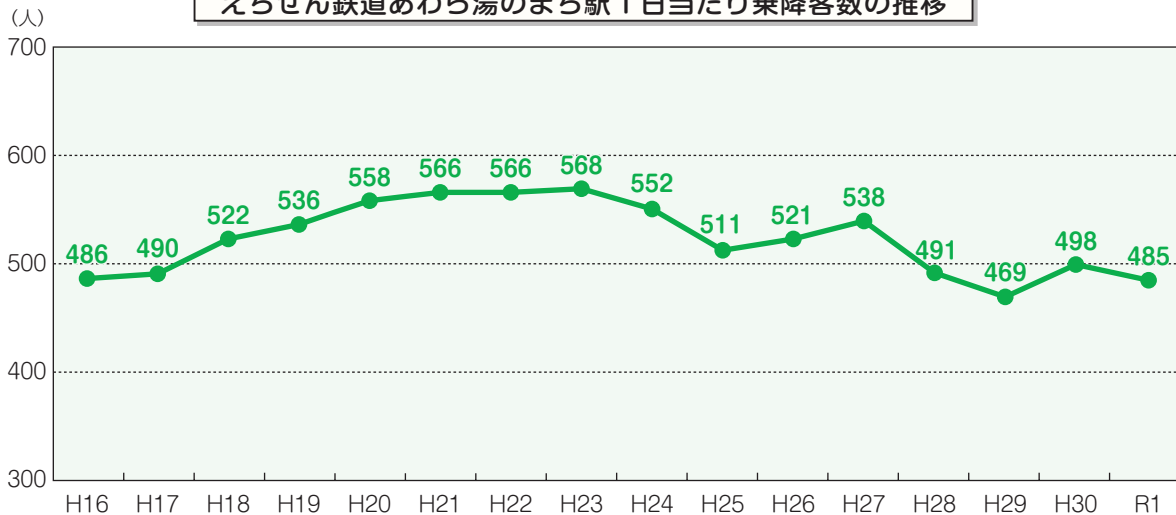
施設名	方式	台数
芦原温泉駅西口立体駐車場	時間制	300
芦原温泉駅東口駐車場	時間制	89
	月極	60
芦原温泉駅東口交通広場駐車場	月極	22
向ヶ丘駐車場	月極	40
湯のまち駅南口駐車場	時間制	165

J R 芦原温泉駅 1日当たり乗降客数の推移



(資料：JR西日本)

えちぜん鉄道あわら湯のまち駅 1日当たり乗降客数の推移



(資料：えちぜん鉄道)

## 【施策の方針】

### (1) 公園の整備

#### ▼都市公園・緑地の良好な管理

誰もが安全で快適に利用できるよう、公園や緑地、広場の適正管理を行うとともに、市民との共動による美化活動を推進しながら、良好な維持管理に努めます。

### (2) 住環境の整備

#### ▼市営住宅の適正な管理

市営住宅の適正な維持管理に努めるとともに、耐用年数が経過したものについては、需要動向



や地域の実情などを踏まえ、用途廃止や長寿命化などを実施します。

▼快適な住環境の整備促進

安心・安全な住環境の形成や良質な民間住宅の供給を促すために、既存住宅の耐震化やアスベストなどの調査に対する助成を行います。

(3) 駐車場等の整備

▼市営駐車場の管理運営

J R 芦原温泉駅やえちぜん鉄道あわら湯のまち駅などの駅周辺や市街地に整備した市営駐車場の適正な管理運営に努めます。

▼西口立体駐車場の管理運営

新幹線開業に伴い整備した西口立体駐車場については、市内外からの利用者を拡大するため、利用拡大に向けたPRを行うとともに、利用者の声に耳を傾けながら、利便性の向上を図ります。

▼市営駐輪場の整備と管理運営

J R 線各駅やえちぜん鉄道各駅などに併設した市営駐輪場の適正な管理運営を行うとともに、放置自転車対策に努めます。

(4) 美しい景観と快適な暮らしの実現

▼景観計画の推進

景観基本計画および景観計画に基づき、海、山、川、湖などの自然環境や固有の建造物の保全と活用、河川の水質保全や生活環境の改善など、豊かな自然と景観に配慮したまちづくりを推進します。

▼美しい景観づくりのための規制と誘導

景観条例に基づき、芦原温泉駅周辺と芦原温泉街を景観形成重点地区に指定しています。このうち、駅周辺については、「J R 芦原温泉駅周辺地区景観まちづくりガイドライン」や「J R 芦原温泉駅周辺地区建築ガイドライン」で、地区内における建築物や工作物などの基準を設けることにより、良好な景観の形成と維持を誘導します。

▼市民・事業者との連携による景観活動の推進

フラワーサポート協議会の活動や花いっぱい運動など市民団体や地域が主体となって行う景観活動を支援するとともに、市民や事業者、市が連携して美しい景観まちづくりを進めるための仕組みづくりを推進します。



(5) 公共交通体系の充実

▼デマンド方式による公共交通の運行

乗合タクシーを利用したデマンド交通の運行について、利用者のニーズなどを把握しながら、一層の充実を図ります。

### ▼公共交通の利用促進

自家用車への依存を緩和し、公共交通機関の利用促進を図るため、電車やバスに対する運行支援を行い、案内看板や時刻表などの多言語案内標識の環境整備を進めるとともに、パークアンドライドやシェアサイクルなど自転車利用の環境整備を推進します。



### ▼広域公共交通ネットワークの形成

芦原温泉駅と主要な観光地のネットワーク化を図り、利便性を向上させるため、鉄道、バス、タクシー、レンタカー、レンタサイクル、さらにはあわらぐるっとバスといったさまざまな移動サービスを一体的に提供する観光型MaaS<sup>\*</sup>の構築を進めることで、主要交通拠点からの二次交通の充実に努めます。

### ▼自転車活用推進計画の推進

2020年（令和2年）度に策定した自転車活用推進計画に基づき、日常の利用だけでなく、健康づくりや観光の視点から見た自転車の効用を普及啓発するとともに、自転車を利用しやすい環境づくりを推進します。また、北潟湖畔サイクリングロード（県道北潟湖畔自転車道線）などのモデルコースを活用したサイクリングイベントの企画を検討します。



## 指標・目標

### ◎公共交通機関が効果的に運行されていると考える市民の割合

24.8%（平成26年） → **28.8%（令和元年）** → **30.0%（令和7年）**

### ◎景観に配慮したまち並み整備が行われていると考える市民の割合

22.3%（平成26年） → **25.5%（令和元年）** → **30.0%（令和7年）**

#### ※MaaS（マース）

Mobility as a Service（モビリティ・アズ・ア・サービス）の略で、あらゆる交通手段における接続をスムーズにし、移動をする際の不便さ、複雑さを解消する新たな移動の概念のこと。観光型MaaSによって、観光客の回遊性の向上を図ることが可能になる。



## 上水道事業の運営



### 安全な水とトイレを世界中に

#### 【現状と課題】

本市の水道事業は、市の一般会計からの多額の補助を受けなければ運営が成り立たない状況にあります。人口減少や節水機器の普及により水道料金などの収入が今後も減少することが見込まれる中、高度成長期に整備した水道施設の多くが更新時期を迎えるなど、水道事業を取りまく環境はこれまで以上に厳しいものになると予測されます。

また、大地震や豪雨による水道施設の被害が全国各地で発生しており、施設の耐震化などの災害対策も必要です。

こうした直面する課題に対応し、水道の基盤の強化を図ることで、将来にわたって安全で安心な水道水を供給し続けていく必要があります。

#### 上水道の現状

区分	給水人口 (人)	総配水量 (m <sup>3</sup> )	有収水量 (m <sup>3</sup> )	1日平均配水量 (m <sup>3</sup> )
市営上水道	25,019	3,892,479	3,230,232	10,664
財産区上水道	2,784	1,022,307	997,908	2,800
合計	27,803	4,914,786	4,228,140	13,464

(令和2年3月31日現在)

#### 【施策の方針】

##### (1) 上水道の整備・運営

###### ▼水道施設の維持管理と運営

安全で安心な水を供給するため、水道施設の適切な維持管理に努めます。

###### ▼水道施設の計画的な更新

水道施設の耐震化を推進し、災害に強い施設の整備に努めるとともに、老朽化した施設の更新を計画的に行いながら、安全で安心な水道の供給に努めます。

###### ▼水道事業会計の健全化

水道事業を取り巻く経営環境がますます厳しくなる中、実効性のある投資計画と財政計画を策定し、安定した経営を行うよう努めるとともに、龍ヶ鼻ダムから配水される契約水量の見直しを県に求めます。

#### 指標・目標

##### ◎安全でおいしい水が供給されていると考える市民の割合

78.4%(平成26年) → 83.3%(令和元年) → 85.0%(令和7年)



### 安全な水とトイレを世界中に

#### 【現状と課題】

下水道は、都市の健全な発達と公衆衛生の向上に寄与するとともに、公共用水域の水質保全を図るため欠くことができない、公共性、公益性の高い重要な都市基盤施設です。

あわら市では、下水道の未普及地区解消に向けて公共下水道施設の計画的な整備を進める一方で、今後増加する老朽化施設の計画的な改築や更新、長寿命化に取り組んでいく必要があります。

また、大地震や豪雨による下水道施設の被害が全国各地で発生しており、施設の耐震化など災害対策も必要です。

一方、雨水排水対策については、近年頻発する集中豪雨などを考慮し、都市排水路の整備のほか、雨水幹線の整備を計画的に実施することが重要です。

本市の公共下水道事業は、市の一般会計から多額の補助を受けなければ運営が成り立たない状況にあります。今後は、人口減少や節水機器の普及による下水道使用料収入の減少、企業債償還金の増加など厳しい財政状況が見込まれる中、こうした課題に対応し、将来にわたって安全で安心な下水道サービスを提供していく必要があります。

#### 公共下水道の整備状況

区分	数量	単位
総人口	27,902	人
公共下水道区域内人口	27,793	人
供用人口	26,851	人
計画面積	1,499.0	ha
整備面積	1,249.9	ha
処理面積	1,249.9	ha
管渠延長	302,394	m
公共下水道区域内人口普及率	96.6	%
整備率	83.4	%
水洗化人口	25,164	人
水洗化率	93.7	%
総処理水量	4,484,868	m <sup>3</sup>
一日平均処理水量	12,254	m <sup>3</sup>
有収水量	3,562,357	m <sup>3</sup>

(令和2年3月31日現在)



## 【施策の方針】

### (1) 下水道の整備・運営

#### ▼公共下水道の維持管理と運営

衛生的で快適な生活環境の実現に向け、下水道施設の適切な維持管理に努めます。  
また、公共下水道を取り巻く経営環境がますます厳しくなる中、実効性のある投資・  
財政計画を策定しながら、安定した経営を行うよう努めます。

#### ▼下水道の整備促進

公共下水道整備計画に基づき、未整備区域における下水道の整備を効率的かつ計画的  
に行います。

#### ▼浸水被害の軽減

近年、下水道の計画降雨を超える集中豪雨が多発していることから、雨水排水施設  
の適切な管理や計画的な整備を進めるなど、浸水被害の軽減を図ります。

#### ▼浄化槽の整備促進

下水道処理計画区域外に対しては、合併処理浄化槽の設置費用の一部助成を行い、  
衛生的で快適な生活環境の実現に努めます。

### 指標・目標

#### ◎計画区域内公共下水道接続率

91.0%(平成26年度) → **93.5%(令和元年度)** → **95.0%(令和7年度)**

#### ◎下水道使用料収納率

97.5%(平成26年度) → **97.7%(令和元年度)** → **100.0%(令和7年度)**